

**第39回
アイデア対決・全国高等専門学校
ロボットコンテスト2026**

＋安全対策ガイド＋

必ず読もう！

全国高等専門学校ロボットコンテスト
実行委員会 競技委員会

<参考>

ロボコン事務局公式サイト（高専ロボコンページ）では、ロボコン事務局が制作した安全対策の基礎が学べる『安全対策基礎講座』を動画で見ることができます。

→ <https://www.official-robotcon.com/kosen/>

特に新1年生、2年生、初めてロボコンに参加する学生は動画を見てください。

<安全対策ポスター> 安全を意識するために活動場所に貼っておきましょう！！

2026年度版

ロボコン活動するときの**注意点!**

ひとりひとりが安全に十分に注意しましょう。

活動時間を守ろう!



夜遅くまで作業はしないように
寝不足で授業が聞けなかったりケガのリスクが大きくなります

破損させない!



作業をする環境は
いつも整理整頓を心がけましょう

周りの状況もちゃんと見よう!



自宅で作業する場合は、家族やペットにも気を配りましょう

ケガをしないように気をつけよう!



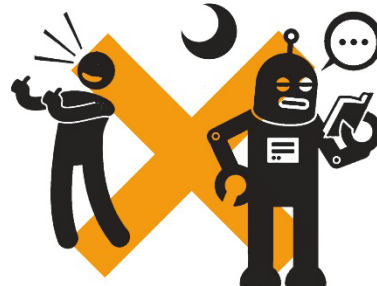
ロボット製作時およびロボット動作時は
必ず安全メガネを装着しましょう

情報共有とスケジュール管理を!



仲間や先生と密に連絡を取って進捗の遅れが無いように!
余裕をもったスケジュールが安全の第一歩です

近所迷惑にならないように!



大きな音を立てる作業はやめましょう
公共の場など他人に迷惑がかかる場所では作業しない

目次

はじめに	3
1) 安全管理責任者	
2) 緊急連絡表と緊急時の対応	
I. 競技課題の安全対策	7
II. 設計・製作・練習時の安全対策	7
II-1 ロボコンを始める前の準備	
II-2 ロボコンの心得	
II-3 設計	
II-4 製作	
II-5 練習	
III. 大会開催中の安全対策	15
III-0 安全の基本	
III-1 テストラン（ロボット検査）・計量計測・安全対策チェック	
III-2 ピット	
III-3 試走場・動作確認エリア	
III-4 競技	
III-5 安全管理委員会	
IV. 提出書類	17
IV-1 安全対策チェックシート（①・②）	
IV-2 電源電位配置図	
V. 質問・その他	18

はじめに

高専ロボコンは今年で39回目を迎えます。40回大会まであと1年です！
皆さんが安全対策をきちんと行い大きな事故や怪我が無かったことが、これほどの長期継続を成し遂げられている大きな要因の一つです。

高専ロボコンでは、各チームの安全管理責任者が中心となって、安全管理を徹底させ、

『自分たちで考え、実行する安全』

をスローガンとし、学生のみなさんには安全管理が当たり前ということが浸透してきています。

このスローガンを基に、一層安全管理を推進するべく、この「安全対策ガイド」をもとに、ロボコン活動の初期段階から安全管理を心がけ、以前指摘されたことは繰り返さないためにも本書を、**再度熟読**しましょう。

本誌だけでなく、ロボコン事務局公式サイト（高専ロボコンページ）の、ロボコン事務局が制作した安全対策の基礎が学べる動画『安全対策基礎講座』を必ず見てください。

<https://www.official-robocon.com/kosen/>

特に新1年生、2年生、初めてロボコンに参加する学生は動画を見てください。

安全対策 4カ条

- STEP 1 : 危険なものを作らない！（本質安全設計）**
- STEP 2 : 危険な部位は防護する！（安全防護）**
- STEP 3 : 危険な状態を減らす！（付加保護）**
- STEP 4 : 周囲に危険を知らせる！（使用情報）**

STEP 1 : 最初から危険なものを作らないように設計・製作すること！何が危険が想像しよう！

STEP 2 : 危険な部位ができた → 防護する・・・つまりガード機構を取り付けること！

STEP 3 : STEP 2 をさらに強化！防護してさらに使用制限を設けるなど！

STEP 4 : 今危険ですよ！と周囲がわかるように情報を発信、誰が見ても認識できる構造にする！

1) 安全管理責任者

- ・ チームメンバーまたはピットクルーの中から、チームリーダー以外の上級生1名を安全管理責任者とする。(チームリーダーと安全管理責任者の兼務は不可)
- ・ 各チームは大会出場のエントリー時に安全管理責任者を必ず登録すること。(ルールブック 1.3 7.1)

「安全管理責任者」は、ロボットの知識や経験が豊富で、安全をチーム全体で考えまとめられる人、つまり上級生がふさわしいということです。またエントリー時に登録となっていますが、事務局に伝えることが目的ではなく、きちんと安全対策をしていくことが大事なので、ロボコンの活動初期にリーダーと安全管理責任者を決めてから活動を行うようにしてください。

※チームに上級生がない場合、特例として2年生も認めます。(1年生は不可)

2) 緊急連絡表と緊急時の対応 (訓練)

どんなに安全対策を施していても、怪我をすることはあります。怪我をした時、あなたならどう行動しますか？ あらゆるトラブルを想定し慌てることなく冷静に対処できるよう準備しておくことが重要です。

『緊急連絡表』の作成

+ 誰かが怪我をしたと想定して、話し合ってください +

① 怪我の手当てについて

救急箱は？学校の保健室は？近くの病院は？休日・夜間対応の救急病院は？
学校や先生、保護者への連絡方法なども確認しておきましょう！！

② 誰に連絡が必要なのか？

③ 「誰が」「誰に」「どこに」連絡するのかを明確にしておく

POINT !

- ① 非常時に何をすれば良いか？が一目で分かるよう、行動の流れをフローチャート形式で作成しましょう。
- ② 作成した表は作業場の分かりやすい場所に掲示すると共に、メンバー全員に配布しておきましょう。☆安全対策チェックシートにも使用します！

※緊急の連絡手段として、電話連絡だけでなく、メールやSNSなどを利用して連絡先グループを作って活用しましょう。

「体調不良時の対応について」

体調が悪いメンバーが出ることを想定して、指導教員、学校からの指導を踏まえてどのように対応するのかを検討して下さい。

例えば

- ・ Web ツールなどを用いて体調を報告する
- ・ 活動に参加してよい、悪い、の判断基準（体温が何度以上であった場合は参加を控えるなど）をメンバーに周知し守るようにする（判断基準については指導教員と相談した上で決定しましょう）

POINT !

- ① 体調が優れないときに何をすれば良いか？が一目で分かるよう、状況に応じた対応方法を Q&A 方式やフローチャート形式で作成しておく有効です。
- ② 対応方法についてはメンバー全員に配布すると共に、スマホなどからも確認できるようにしておくとい良いでしょう。

『緊急時の訓練』

実際に訓練を行うことで、緊急連絡表が機能するか？誰もが自主的に行動できるかをシミュレーションしておくことがとても大切です！

是非、定期的に訓練を行うことを推奨します！

I. 競技課題の安全対策

今年の競技は、雑巾がフィールド上にたくさん存在します。

ロボットが雑巾を巻き込まないように、巻き込み防止用のガードをつけたり、巻き込まないような足回りを考える必要があります。

アイデアを考える際、まず雑巾をどうやって投げるかという事に注力するのではないですか？

それよりも先に自分たちのアイデアには、どのような安全対策をとる必要があるか、

チーム内でよく話し合い課題を見つけてください。

※安全対策はチーム全員が行わなければ、意味がありません。

「安全管理責任者」にすべて任せるのではなく、下記の項目についてもチーム全員で考えましょう！

II. 設計・製作・練習時の安全対策

II-1 ロボコンを始める前の準備

ロボコンの活動を始める前に、ロボットチェックシートや安全作業ガイドラインなどを作成しておくことで作業がスムーズ、かつ安全に進めることができます。

○ロボットチェックシート（製作時・動作時）

ロボットを動かすときの手順や動作をチェックするためにロボットチェックシートを作りましょう。毎回、動作時にチェックを行うことで、不調な箇所やその原因を調べることにも役立ちます。自然とロボットの安全チェックが身に付きます。

○安全作業ガイドライン

安全作業ガイドラインはその名のとおり、作業を安全に行うための自分たちのルールブックです。

すでに学校に安全のガイドラインなどがあれば、それを参考にして作り直しましょう。

なければ、ロボコン活動専用の安全作業ガイドを作ってください。

II-2 ロボコンの心得

ロボコンはチームプレーです。下記のことを留意して長期間におよぶ活動を円滑に進められるよう心がけてください。

○スケジュールの管理（無理のないスケジュール作り）

ルール発表から、地区大会、全国大会終了まで、約半年間“ロボコン”は続きます。

大会までにロボットが動いてアイデアを実現できるようにするためにはスケジュール管理がとても大事です。

ぎりぎりになって無理な作業をしなくてよいように、安全に作業ができるスケジュールを考えましょう。

メンバー・指導教員と情報を共有し、目標スケジュールを貼りだすなど、工夫してください。

スケジュール管理や健康管理も、安全対策の一つです。余裕を持った管理をしましょう！

○指導教員とのコミュニケーション

- ・ ロボット製作の進み具合の共有（どこが良くて、どこが悪いのかなど）
- ・ チームの状況、仲間との連携、学業成績など
- ・ 指導教員から許可を受けていない時間にロボットの製作作業を行わない。
※指導教員もチームの一員です。些細なことでも『ほうれんそう（報告・連絡・相談）』を密に行ってください。

○体調管理の徹底

空腹や睡眠不足は集中力が低下し、適切な判断ができなくなります。
長時間に渡り作業を続けたり、徹夜明けでロボットの駆動練習をしたりするのはとても危険です。お互いに体調が優れているか状況確認し対策してください。

○服装のチェック

作業場所、作業内容、動作テストに適した服装を必ず着用するようメンバー同士で確認しましょう。**作業時にはヘルメット、ゴーグルは必須です。**

※ヘルメットに関する注意事項

- ・ あご紐を絞めて着用してください。
- ・ 自転車用ヘルメットなどで一部見受けられるような隙間が大きかったり、たくさんあるデザインの場合は、本安全対策には則さないため使用を認めません。
- ・ ヘルメットとしての機能を損なう装飾や、突起物などの人に危害を加える可能性のある装飾は認められません。
- ・ 装飾したヘルメットを着用して練習を行い、安全が確保できた状態で大会当日も着用してください。
- ・ カメラその他の機器を搭載することも認めません。

Ⅱ-3 設計

安全対策は設計の段階から始まっています。あとから組み込むことが困難な場合もあるので**設計段階から安全対策を考えましょう。**

① ロボットの重心・強度

ロボットの重心位置や強度を十分に考えて設計してください。

またロボットの暴走や操作ミスでロボットが展開し、人に当たることがないように非常停止スイッチや安全ロック等についても検討が必要です。※装飾なども設計段階から考えておいてください。

② 動作部分と出力

ロボットには駆動部分や動作を行う部分が存在します。またこの動作部分が勝敗に大きく影響します。

★スピードが出すぎで危険ではないか、暴走したら止めることができるのか。

★万が一安全ロックが外れて動作部分が飛び出したら危険ではないか。

★必要なバッテリー容量が大きすぎて危険ではないか。

あまたあるロボコンの中で、高専ロボコンが一番重視するのは「アイデア」です。

良いアイデアを実現するためには、必ずしも動作部分が強力である必要はありません。

本当にその出力が必要なのかを再度確認しましょう。

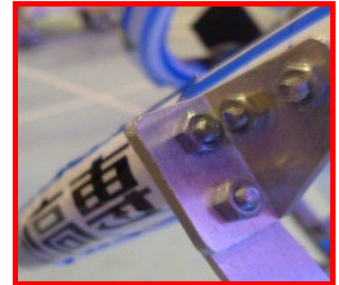
Ⅱ-4 製作

ロボット製作における基本的な安全対策について過去の事例なども紹介しながら、どのような安全対策が必要か？適切か？を考え、独自の安全対策を行いましょ！

過去の「改善指摘内容と改善報告書」は残してありますか？先輩の残したのものからも対策方法を学び後輩に残していきましょう。

<鋭利部分>

ロボット作りをしていると、どうしても鋭利な部分や危険な箇所ができてしまいます。そんな時には、**安全対策4カ条のSTEP2**を思い出してください！鋭利部分というと金属でできたものを想像しますが、ロックタイなどプラスチック製でもカットした部分は鋭利です。



鋭利部分にRをつける

ロボットの暴走、転倒、落下時にロボットを止めようとして鋭利部分に接触し、切り傷を負ったり、目に刺さったりした場合は最悪、失明する恐れもあります。

- ① 保護具（保護帽、保護メガネ、長袖・長ズボン）を着用する
- ② 防護物（マットレス等）を利用し、直接ロボットを停止させる
- ③ ロボットをつかんでも良い安全な部分を作る・・・など



※パイプやアングルなどを切断した時は必ずバリが発生します！

「ものづくりに携わる者」として鋭利部分の“ヤスリがけ”や“面取り”は常識です！

<電装品の固定>

バッテリー、スイッチ、センサー、回路基板などの電装品をロボット本体に固定すること。また、配線もきちんとまとめること。固定する際に、燃えやすい素材を使用しないこと。短絡防止措置として、回路基板にはカバーをすること。

テストラン後に指導されてから対応するのではなく、安全のために実行しましょう

カバーの設置

<可動部>

ロボットの可動部分（ギア・リンク）は巻き込まれる可能性が高い部分です。

巻き込まれると手や足が潰されたり、骨折、最悪の場合は切断に至ることもあります。



- ① 手足や衣服、雑巾などが巻き込まれないよう必ずカバーなどで覆う。
- ② 稼働中はランプを点灯させ、まわりに周知する。
- ③ 危険場所へ“トラテープ”を貼り付ける。
- ④ 安全に持てる部分に緑のテープを貼って、持つ部分を表示する。



手が巻き込まれ

※今年の競技課題では、パイル地でできている柔らかい雑巾を用いるため、ロボットに人の手や足が巻き込まれないように対策をするのは例年同様で、さらに雑巾の巻き込み対策も必須です。

雑巾を投げる際やフィールドに落ちた雑巾の巻き込みもさることながら、自チームのロボットに降ってくる相手チームからの雑巾への対策も行ってください。

競技委員会では、それらの対策ができていないか確認し安全とみなされない場合は改善を求めます。

<電源構成>

電源を構成するときに注意したほうが良いこと

- ① 駆動回路と制御回路の電源を分けてみる。
- ② 駆動回路と制御回路の電源を共有した場合、モータ等の駆動部に大きな負荷がかかると、一時的に電圧が下がることがあります。その結果、制御回路の出力信号が不安定となりロボットが誤動作する可能性があります。
- ③ RCサーボモータは、なるべく駆動用電源から電圧を加えるようにして下さい。どうしても制御系電源からサーボモーターへの電源を取る場合は、制御系電源にもヒューズを入れてください。

※電源構成については、非常停止スイッチで全ての電源が切れれば安全ですが、制御系を落としてしまうと、再起動、Wi-Fiの再接続に時間がかかるので駆動系のみ切ることを認めています。上記のこと踏まえて実行するようにしましょう。

<バッテリー>

まずはバッテリー選びから見直してみましょう！

自分たちのアイデアにあったバッテリーを使っていますか？

例えば時速30キロ制限の道路でF1に出場するようなレーシングカーは必要ありませんよね

不適切な取り扱いは発火・爆発の危険性があります。

特にリチウムイオン系バッテリーは危険度MAX！！

充電・使用・運搬、それぞれにルールを設けて使用する必要があります。



バッテリー内部で発火

- ①振動、衝撃を与えない。
- ②落とすなどの強い衝撃が加わったバッテリーは使用しない。
- ③全体を覆い隠さない（放熱を考える）。
- ④膨張していないバッテリーを使用する。
- ⑤燃えやすい素材を周辺に置かない。
- ⑥過負荷な充電をしない。
- ⑦使用履歴の管理を行う。
- ⑧状況が目視できる位置にバッテリーを配置する。
- ⑨保管時は不燃性の保管庫で管理する。
- ⑩全員がバッテリー異常時の対応方法を理解する・・・など。

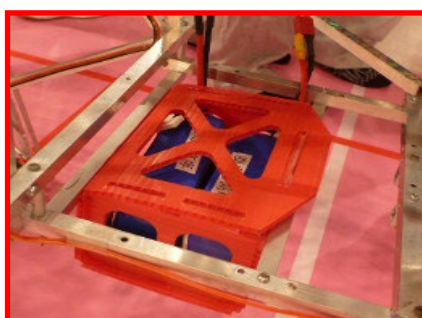
<電気回路>

みなさん、なぜ電気回路のパーツが燃えるのか、原因はわかっていますよね？

不適切な回路設計や電流量に不適合な配線の使用などによって回路がショートし発火します。発熱した回路の一部に、雑巾が触れ発火してしまうリスクもあります。

回路カバー等、雑巾が回路の発熱部に触れることが無いように、又、上から雑巾が降ってくることも想定して回路を保護する対策をしましょう。

カバーの設置（例）やゴムコーティング等で対策



- ① 適切なコネクタ・配線を利用する。
- ② 振動・衝撃を考慮した回路の固定をする。
- ③ ヒューズを入れる。ヒューズとは何かを理解しましょう。
- ④ ヒューズは、必ず正しい位置で利用すること。
(ロボット1台当たりの機器容量の合計は30A以下)
ヒューズを入れたからたくさん電流を流してもヒューズが止めてくれる、のではなくその容量を超えないように設計すること。
- ⑤ 回路は状況が目視しやすい位置に配置する。

※ルールブック 3.2.5 電源の制限

自分たちのロボットに適した機器（ヒューズやブレーカー等）を取り付けてください。

例年、回路から煙や発火する事故が発生しています。十分に注意してください。

ロボット1台当たりの機器容量の合計は30A以下です。配線や素子の容量値を大きく超えるヒューズ等を入れている高専が見られましたので、統一的に電流容量を規定しました。複数の駆動系電源を用いている場合でもロボット1台につき、ヒューズ等の容量の合計が30A以下になるようにして下さい。

<電源・その他の動力>

競技課題の達成やアイデアを実現するための動力は何を選べば良いのか？

簡単に扱えるからなどという理由で圧縮空気を選んだりしていませんか？

どんな動力にもメリット・デメリットが存在します。

また、動力の出力についても考えてみましょう。物理で習ったと思いますが、回転によって得られる機械的な出力は $P=\omega T[W]$ （角速度とトルクの積）で決まります。トルクが小さくても回転数

が速いと大きな出力になります。逆に、回転数が遅くても大きなトルクだと出力が大きくなります。自分たちのアイデアを実現するため慎重に検討しましょう！

<レーザー>

必ずルールに基づいた出力のレーザーを利用してください。

JIS C 6802 : 2011 (IEC 60825-1 : 2007)に示すクラス 1、2 (クラス 1M、2M を除く) のみ使用可能です。

レーザーが目に入ると傷害を受けることがあります。

設計・製作時からレーザーの取り扱いには十分に注意が必要です。

- ①レーザーの照射する方向を制限する。
- ②照射中だとわかるようにする。
- ③必要時以外はレーザーの電源が切れるようにする・・・など。

<ボンベガス圧>

高圧ガスは常温においてゲージ圧が **0.75 メガパスカル以上** のものを用いてはならない！ (ルールブック 3.2.7 より)

規定通り 0.75 メガパスカル、MAX の圧力をかけていませんか？

またルールブックに書いてあるからといって 0.75 メガパスカル以下での使用について安全を保障しているわけではありません。

圧縮空気を使用する場合は、タンクや接続部品の仕様を確認し定格圧力以内で使用するようにすると共に、加圧前は必ず栓や接続部が緩んでいないか、タンクや接続部、チューブが破損していないか、外れたりしていないかなど、確認することがたくさんあります。

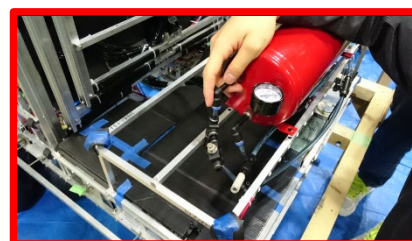
安全に扱うにはどの程度まで圧力をかけて大丈夫か？

また消耗部品交換の時期は？・・・

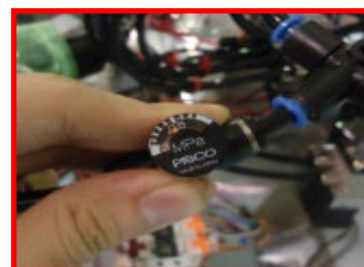
など不確定な要素もいくつもあります。

トラブルが起きた箇所は必ず改修をして同じことを繰り返さないように！

他にもどんなチェックが必要か、皆さんで話し合い、情報共有に努めて下さい。



接合部分のはずれ



加圧中の数値を表示

- ① 圧力を下げる。
- ② 加圧計を設置する。
- ③ 加圧中はヘルメット、ゴーグルを着用する。
- ④ 使用前に緩みや破損がないか点検する。
- ⑤ トラブルが起きた場合は改修が終わるまで動作させない。

圧縮空気をペットボトルおよび自作タンクに入れて使用することはできません。

<無線>

これまで同様、競技委員会では無線管理は行いません。

技適マークがない無線器の使用は法律で禁止されています。

無線がトラブルを起こした際、ロボットが誤動作を起こしませんか？

無線が異常をきたした場合、ロボットが停止するような構造になっていることが求められます。



※万が一通信が切れたときは、強制的に動作がストップする安全性（モーターの動作が全てオフになる）が保たれる回路を最初から設計してください。大会間際に回路の設計をやり直す手間もありません！

※今年は、通信障害を減らせるようにフィールド内にコントロールステーションを用意しています。

<非常停止スイッチ>

非常停止スイッチ・・・

なぜ赤いのでしょうか？なぜ押しボタン式なのでしょうか？

考えたことはありますか？

その理由がわかれば、ロボットのどこに設置すればよいか、おのずと答えが出るはずです。



非常停止スイッチ

ロボットに非常停止スイッチを**最低2か所備え**、ロボットのどの方向からでも停止できるように取り付けること。またコントローラーにも非常停止スイッチを備えることを推奨します。

非常停止スイッチとは別回路で、電源スイッチを設けること。

非常時以外に非常停止スイッチを使って電源をON/OFFしないこと。（ルールブック 3.2.8）

緊急時にはチームメンバー以外に、審判が非常停止スイッチを押すことがあります。

付けていれば良いということではなく、競技中のロボットの動作も考えて**押しやすい場所に必ず押せる強度で**に設置してください。

メンバー以外の他人（審判など）でもすぐに非常停止スイッチの場所がわかるよう、黄色い背景部分は大きく作成すること（サイズが小さいと修正を求めることがあります）。

※非常停止スイッチはロボットの進行方向側にあると、押す際にとっても危険です。

取り付ける場所を十分考えて設置するようにしましょう。大会時でも取り付け場所が正しくないと判断した場合は付け直しを指示する場合があります。

『ロボットの緊急停止』

今回の競技では、手動・自動のどちらを採用しても良いですが、自動ロボットの場合は、手動ロボットとは違って、コントローラーなどで操作することができません。コントローラーとは別に遠隔でも停止できるようにしましょう。

Ⅱ-5 練習

いざロボットができて、練習する際、どのようなことに注意して行えば安全でしょうか？
無作為にロボットを動かすようなことはないと思いますが、ロボットを製作する前から試運転する際の安全対策にも目を向けておきましょう！

○練習する場所

- ・室内で行う場合、ロボットを動かすスペースは十分にあるか？
- ・展開時など、人や物に当たらない場所の確保ができていますか？

そして、腕や足を露出した服装で参加しないこと。長い髪の毛は束ねるなどしてください。
またロボット運んでいる時に不意に揺れたり、傾いたりして突き出た部品やアームが目当たる可能性があります。ロボットを運ぶ時も必ずヘルメットとゴーグルを着用して下さい。

Ⅲ. 大会開催中の安全対策

基本的に「各地区大会での注意事項」や、「安全対策チェックシート②」（地区大会11日前の水曜日に提出）に準じて行動してください。

Ⅲ-0 安全の基本

毎年会場内やフィールド周り、ロボット付近では絶対に走らないこと！！と注意していますが、時々走っているのを見かけます。
走るとどうして危険なのか？・・・いまさら説明はいりませんよね！

Ⅲ-1 テストラン（ロボット検査）・計量計測・安全対策チェック

大会前日は特に、ロボットをいろいろな場所に運ぶ必要があります。

「ロボット通ります！！」という声かけで周囲にロボットの存在を知らせてください。

ロボットの設計段階からロボットはメンバーたちが手で運ぶことを考え製作する必要があります。ロボットをどのように運ぶのかも考えておきましょう！

ロボットを運ぶ人は台車を使う場合でも必ずヘルメットとゴーグルを着用してください！

※ロボットを運ぶ時の補助台などをうまく利用して安全に運びましょう！

昨年の大会ではかなりのチームが声出しできていましたよ！

Ⅲ-2 ピット

ピットの広さってどれくらいか分かりますか？

毎年開催場所が変わる高専ロボコンでは、各会場によってピットの大きさも変わります。

☆強いチームはピットがきれい。狭いピットでも整理整頓がきちんとされている・・・

→ロボットの作業できるスペースを上手に確保しトラブルにも迅速に対応可能です。

★工具が足元に転がっている、ピット外にロボットや部品がはみ出しているチーム・・・

→作業するスペースが確保できないと工具を踏んだりして、怪我をする可能性も！

→トラブルで焦り、さらにトラブルを引き起こす負の連鎖に陥ります！

※ピットに持ち込める棚の高さは最大1000mmまでです。

倒れないよう対策して安全に使用してください。

必要以上に縦積みしないよう注意してください。

Ⅲ-3 試走場・動作確認エリア

試走場・動作確認エリアの準備は、各地区の担当校が行っています。

地区によっては試走場をフルサイズで設置できる場合もあれば、動作確認エリアのみの場合もあります。これらの設備は地区大会担当校のご厚意により準備していただいているため、毎年各地区毎に仕様や運用が異なります。地区担当校が作成したルールを必ず確認し、遵守するとともに安全に十分留意して利用させていただきましょう。

なお、試走場のある会場では、テストランの申し込み開始以降は1回目のテストランの申し込みが完了するまで試走場を使用することはできません。計量計測を終えたら、原則としてすぐにテストラン（ロボット検査）に申し込むようにしてください。

Ⅲ-4 競技

試合前の安全対策チェック事項！！ 落ち着いてみんなで再確認しましょう！

- ① チームメンバーの服装、ヘルメット、ゴーグルの準備は？
- ② ロボットのバッテリー、電源、配線はそれぞれきちんと固定されている？
- ③ エネルギーを蓄積する機構の誤動作、破損対策は？
- ④ 圧縮空気のタンクは正常？
- ⑤ ロボットの運搬時の安全対策は？
- ⑥ 非常停止スイッチは見えていてすぐに押せる？正常に作動する？
- ⑦ レーザーなどのセンサー類の安全対策は？
- ⑧ ロボットの転倒時の対策は？
- ⑨ 出る前に深呼吸・・・など

※チームオリジナルのチェック項目表を作って、いつでも平常心でベストパフォーマンスが出せるよう、試合に臨みましょう！

Ⅲ-5 安全管理委員会

安全管理委員会は、大会期間中に各チームの安全管理責任者が、大会でのリスクを共有し、お互いに事故が起きないように注意し合う場です。

<日程>

大会前日 オリエンテーション終了後

大会当日 リハーサル終了時

※集合場所など詳細は、地区大会毎に違いますので、必ず確認してください。

<内容>

事前に各チームから提出された「安全対策チェックシート」をもとに、自分のチームだけでなく、参加者全員が注意すべき項目を再確認します。

(質問なども随時受け付けます。こういったケースではどうすればよいか？など、質問事項があればまとめておきましょう！)

IV. 提出書類

IV-1 安全対策チェックシート（①ロボット製作中～練習用、②大会時用）

1. 安全対策チェックシートとは？

自分たちのロボットに安全対策が施されているか？チェックする用紙です。

2. 安全対策チェックシートの運用

チェックする項目は各チームが独自に考えます。

→競技委員会から、最低限これをやってくださいという形式ではなく
自分たちで考え実行する一歩進んだ安全管理の方法です！

※ 例年、「安全対策チェックシート①」を、1回目のアイデアシートと一緒に提出していただいていたが、今年は最終エントリーの際に提出してください。

8月24日（月）提出『安全対策チェックシート①』

<安全対策チェックシート①>

1. ロボット設計から、大会終了までを大きな段階（フェーズ）ごとに分けます。
（例えば・・・設計・製作・練習・大会など）
2. 各段階で必要な安全対策をみんなで考え、項目をあげていきます！
3. 安全対策チェックシートに必要な項目を入れていきます。
4. 各項目に対する具体的な安全対策の方法を記入しましょう。
※どの段階から対策が可能か？必要か？も検討しましょう！

安全対策チェックシート①は、安全対策の項目とその対策例のみ確認します！

※項目0番の「緊急連絡表の作成」は必須です。

地区大会前の週水曜日（11日前）までに提出『安全対策チェックシート②』

<安全対策チェックシート②>

1. 安全対策チェックシート①の安全対策が実現できているか？
自分たちでチェックします。
2. どのような安全対策を施したのか？写真を付けて説明してください！
3. 完成したら、地区大会直前のチーム紹介シートと一緒に提出してください！
実際に安全対策ができているのか、大会中に確認を行います。

※安全対策に問題があると競技委員会が判断した場合はロボットの修正を求めます！

※自分たちで作った項目を大会直前に再チェックし、どのような対策をとったのか
画像入りで提出してもらいます。→これが安全管理委員会での資料となります！

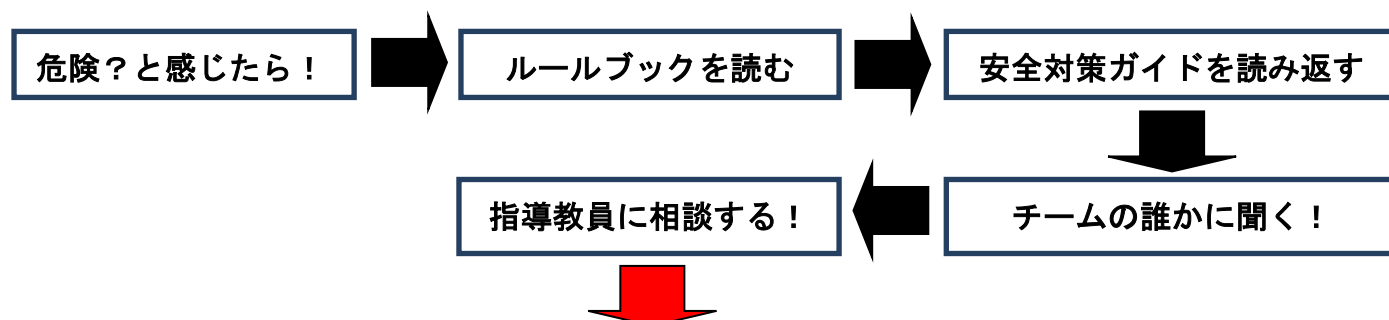
IV-2 電源電位配置図

今年もロボットの電源・電圧のチェックは電源電位配置図を用いて行います。ロボットの設計が図と同じようになっているか？誤った配線をしていないかを確認します。危険と判断された場合は修正を求めます。また図と違う場合には、電圧計を用いて計測を行うことになるので正確にそして丁寧に記入してください。

<電源電位申告書の書き方>

- ① 制御系の電圧ラインを青色、駆動系の電圧ラインは赤色として作図して下さい。
- ② サーボモーターや電磁弁等の駆動電源をマイコン等の制御系回路から直接とる場合、マイコンの電源は、制御系ではなく駆動用電源となるため、赤色でとなります。
※提出された電源電位申告書と大会時の確認で違っている場合が見受けられます
正しく配線しないと大きな事故につながりかねません。
提出前に必ず、指導教員又は指導教員経由で対応できる方に見てもらう事。
※エントリー、最終アイデアシートと一緒に8月24日（月）までに提出してください

V. 質問・その他



勇気を出してロボコン事務局に質問してみる！！

[ロボコン事務局公式サイト（高専ロボコンページ）内](https://official-robocon.com/kosen/)

[→「ルールに関する質問」フォーム](https://official-robocon.com/kosen/contact/)

<https://official-robocon.com/kosen/contact/>

ロボコン事務局では、安全に関する質問も受け付けています！

ルール問い合わせの5つの質問には含まれませんので積極的に活用してください。

「ルールに関する質問」フォームから大項目に「11. その他」、枝番号に「安全」と入力してください。ルールの質問と一緒に送らないでください。